

令和5年度政務活動実施成果報告書

会派名 茨城無所属の会

政務活動の主な内容及び成果について

(1) 県民からの県政に対する意見聴取

【目的】

改選後まず議員、会派として政務活動を開始するにあたり、
県民の県政に対する意識調査を進め、政策の実現に資する。

【活動時期】

政務活動報告期間中を通じて随時実施。

【活動内容】

県民との個別の意見聴取並びに会合などでの意見交換。

【成果】

意見交換に併せ県政報告を行い、県政への関心を喚起。

(2) 県民からの県政に対する要望などの聞き取り

【目的】

県民の県政に対する要望を聞き取り、県政の課題解決につな
げる。

【活動期間】

政務活動報告期間中を通じて随時実施

【活動内容】

聴取した意見や要望について、現地確認や調査なども適宜行い、県の所管部署や、土木、工事事務所など県の出先機関に出向き情報を共有。

【成果】

県政を通じての県民の福祉向上に向けた改善課題を職員と共有。県道などのインフラの改良、利便性向上などは事案によって改善が実施された。

(3) 食の安全と食と健康についての活動**【目的】**

食料・農業危機、農と食をいかに守るかを考える。

【活動期間】

政務活動報告期間を通じて随時、セミナーについては令和5年5月19日

【活動内容】

関連書籍の購入、神栖市の「かみす防災アリーナ」で開催されたセミナーに参加。(講師は東京大学大学院教授、鈴木宣弘氏)

【成果】

食料自給率の低下や、ロシア・ウクライナ問題や中国の爆買いなどによる食糧高騰によって起こりうる諸問題の把握。

(4) カナダ視察

【目的】

カナダの最新の設備投資や日本との貿易についての調査を行うとともに茨城とカナダ、また、日本とカナダの緊密な関係性を作る。

【活動期間】

令和5年9月9、10、12、15、17日

【活動内容】

ウィニペグでは、ジェリン＝バレル氏(マニトバ州副大臣)
モリス＝アレクサンダー氏(マニトバ州貿易輸出開発・経済開発投資部長)との会談。

トロントでは総領事との会談とオンタリオ州の交通機関への設備投資についてのリサーチを行った。

【成果】

ウィニペグのバレル氏、アレクサンダー氏との会談では、マニトバ州と日本の貿易の状況について聞いた。特にカナダから日本への豚肉やキャノーラ油や、大豆や飼料の輸出状況について聞いた。日本全体の輸出入はあるものの、茨城県単体で見ると、まだまだ販路拡大の余地があると感じた。
干し芋を初めとした農産物の輸出の販路開拓の可能性について話し合った。

トロントでは総領事に会い、日本カナダの地方分権の違いや共通点、どのような点を参考にすれば良いか、アドバイスをいただいた。

また、日本の交通にも詳しい公共交通機関の専門家マーティン＝リース氏と、トロントのPFI投資家・マイク＝ルーブラック氏との会談では、オンタリオ州の公共交通機関の莫大な投資(10年17兆円)の内実・効果や、PFI制度(民間の投資家が公共インフラ

プロジェクト、例えば、学校・病院・交通システムなどの資金提供・設計・建設・運営する)についてのヒアリングを行った。

また、トロント大学のフィリップ・Y・リップスキー教授との会談では、筑波大学・茨城大学とトロント大との交換留学について話し、日本の地方政治についての講演のミーティングも行った。

(5) 日本大学鈴木ゼミ講演・休日議会見学

【目的】

公務員志望の学生と行政機関で働くことについての意見聴取・交換、議会見学で留意すべき点などについて事前レクチャーを行い、学生の議会に対する理解を深めるとともに、議会運営や内容について、若年層の意見聴取・交換を行う。

【活動期間】

令和5年5月30日・6月17日

【活動内容】

日本大学三崎町キャンパスでのゼミナール授業において、事前に質問したい内容のアンケートをとり、その内容について、講演を行った。また、休日議会のあとに、議長室にて議長、会派の議員を含めて、議会についての質疑応答、意見交換を行った。

【成果】

今回の学生は、法学部生で、大部分が公務員志望だったので、行政への興味も高く、県政の個別具体的な施策についての意見交換も行われた。また、実際の議会の雰囲気を感じ、地方公務員として自分が働くイメージを持てたという学生の意見もあった。

(6)岡山県・山口県視察

【目的】

農業経営の改善・食品ロス・気候変動への適応等、諸問題の改善につながる農業の最先端技術について学び、そのメリット、コストや問題点について調査する。

【活動期間】

令和5年9月27日～9月29日

【活動内容】

岡山県・・・岡山大学・(株)木原製作所の視察
山口県・・・三笠産業(株)の視察

【成果】

岡山大学のインキュベーター制度を利用している民間企業、(株)木原製作所では、特定健康作物の栽培(特にモリンガ)の生産加工と、根を利用したパウダー(鶏の餌に混ぜ、鶏に付く寄生虫を20分の1まで減らしたというデータがある)の制作を見学した。

山口県の三笠産業(株)では、加工物の保存性を高めるための低温乾燥機と、野菜をパウダー化している工場の視察をした。

両施設の視察で、最先端農業の知見をより一層得られた。低温乾燥・パウダー化は、保存性も上がり、輸送の効率化にもつながり、農業経営改善・食品ロスの削減・食の安全向上の図れる技術だと感じた。

このような「有機農業の推進」について、令和6年度の一般質問で、発表する予定。

(7)熊本県・福岡県視察

【目的】

熊本県阿蘇市では、阿蘇市役所に出向き、阿蘇市の観光事業

の現状、サイクルスポーツの効果など、阿蘇カルデラツーリズムの取り組みについて見学する。また、年間3000人強の出産実績をもつ福田病院では、少子化が進む中、どのような体制でこれほど多くの出産を行っているのか、そのシステムに注視して視察をする。

北九州エコタウンセンターでは、ゴミゼロエミッション計画廃棄物の再生、利活用について見学する。

【活動内容】

- 1 熊本県・阿蘇市の観光事業の現状の視察
- 2 福田病院(年間3000人強の出産実績)の視察
- 3 北九州市エコタウンセンターの視察

【活動期間】

令和5年8月21日～8月23日

【成果】

阿蘇市の観光事業は、天候に恵まれなかったこともあり、実際の観光客の数も多くはなかったが、茨城県のサイクリング推進の参考になった。

福田病院は、産婦人科で出産件数の特に多い病院。3000件近くある。病院の仕組みなどを事務長に案内してもらい、院長に仕組みづくりや、これからの産院のあり方についてヒアリングした。産婦人科医だけでなく、助産師の活躍が目立った。7割近くが普通分娩として助産師が赤ちゃんを取り上げている。

デメリットとしては、普通の病院と比べ、費用がかなりかかるとのことで、茨城県ではそのような体制が難しいので、まず環境を整えるためにセミオープン方式(公共・個人の病院や助産所やクリニックが連携する方式)連携の参加体制が理想であると所感を得た。

北九州エコタウンセンターでゼロエミッション計画についての見学を行った。全国20数カ所の施設で行われていて、茨城県には

そのような施設がないので、同様の施設の建設・増築の推進をしていきたいと考えている。